

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法実践論		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之・佐々木 昭 谷永 憲史		
時間数	60				実務経験の有無	有		
学年・学期配当			1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			本格的な臨床実習である臨床実習Ⅱ、Ⅲ、およびⅣに臨むに先だって、これら実習に参加するにみあう臨床能力が身についているのかを確かめることがこの科目の目的である。					
授業全体の 内容の概要			身だしなみや症例に対する言葉遣い、問合いの取り方のような態度、そして種々の検査・測定や治療手技を安全かつ効果的に実行できるための知識と技術が身についているのか、模擬症例を通して確認していく。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			①各臨床実習の意義・到達目標について理解できる ②模擬症例を通して検査測定・治療プログラムまでの一連の流れを理解しまとめることできる ③OSCEの意義・到達目標について理解し、OSCEを通して臨床技能と態度を身につける					
指導計画	回	形態	内 容				場所	
	1	実技	実践的評価①（佐々木）				実習室	
	2	実技	実践的評価②（佐々木）				実習室	
	3	実技	実践的評価③（佐々木）				実習室	
	4	実技	実践的評価④（佐々木）				実習室	
	5	講義	臨床実習Ⅱと臨床実習Ⅲ・Ⅳの概要				教室	
	6	講義	実習での注意事項・接遇・マナー①（谷永）				教室	
	7	講義	実習での注意事項・接遇・マナー②（谷永）				教室	
	8	講義	デイリーノートの書き方について				教室	
	9	講義	レジュメ作成・レポートの書き方について				教室	
	10	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク①				教室	
	11	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク②				教室	
	12	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク③				教室	
	13	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク④				教室	
	14	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク⑤				教室	
	15	演習	模擬症例検討：運動器疾患・グループワーク⑥				教室	
	16	演習	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク①				教室	
	17	演習	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク②				教室	
	18	演習	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク③				教室	
	19	演習	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク④				教室	
	20	演習	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク⑤				教室	

指導計画	21	講義	模擬症例検討：中枢神経疾患・グループワーク⑥	教室
	22	実技	実践的評価⑤（佐々木）	実習室
	23	実技	実践的評価⑥（佐々木）	実習室
	24	実技	実践的評価⑦（佐々木）	実習室
	25	実技	実践的評価⑧（佐々木）	実習室
	26	講義	OSCEの目的・概要	教室
	27	講義	OSCE：試験課題・到達目標	教室
	28	実技	OSCE：事前練習	実習室
	29	実技	OSCE：事前練習	実習室
	30	実技	OSCE：事前練習	実習室
			原則、筆記試験の実施 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		配布資料		
評価方法		成績評価は、レポート提出、症例発表、OSCEをもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある		

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床心理学		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	15時間				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		「心理学」で心理学の基礎的内容を学習し、臨床心理学ではその基礎的内容を応用し、心理臨床の実践方法を修得する。臨床心理学は、心に関するさまざまな問題を抱える人に対し、心理学的知識や技法を用いて実践的に関わりを持っていく分野。理学療法士は患者に対して、リハビリによって機能の回復だけでなく、心のケアも行う必要がある。臨床心理学の歴史や主な理論、技法、関連領域について学び、実践に役立てることを目的とする。				
授業全体の内容の概要		知能、発達、性格に関する各種検査、色々な心理療法に関する内容、乳幼児から老年期までの各発達段階の特徴と心理臨床				
授業修了時の達成課題（到達目標）		心理学リテラシーの修得 ・パーソナリティについて理解できる／発達各期における心理臨床問題について理解できる ・欲求と自我防衛機制、精神障害について理解できる／臨床心理学的アセスメントおよび心理療法について理解できる				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	臨床心理学の歴史と臨床心理学への導入、各種知能検査①			教室
	2	講義	各種知能検査② 各種発達検査①			教室
	3	講義	各種性格検査①			教室
	4	講義	その他の心理検査、テストバッテリー、面接法			教室
	5	講義	臨床心理学的援助 色々な心理療法への導入①			教室
	6	講義	臨床心理学的援助 色々な心理療法への導入②			教室
	7	講義	臨床心理学的援助 色々な心理療法への導入③			教室
	8	講義	ライフサイクルと心理臨床／心理臨床活動の領域			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		『コメディカルのための専門基礎分野テキスト』（中外医学社） 『臨床心理学』名嘉幸一編集（中外医学社）				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床運動学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		生体力学の観点から、人の日常生活活動における動作遂行能力を評価するための臨床推論の過程を理解する。				
授業全体の内容の概要		日常生活における基本動作となる、寝返り～起き上がり～起立・着座～歩行動作のメカニズムや評価方法を、運動力学的視点から学んでいく。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		健常者・障害者の身体運動を生体力学的に分析できる。基本動作障害の分析ができる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	運動学・運動力学の基礎①			教室
	2	講義	運動学・運動力学の基礎②			教室
	3	講義	関節モーメント①			教室
	4	講義	関節モーメント②			教室
	5	講義	関節モーメント③			教室
	6	講義	開放運動連鎖と閉鎖運動連鎖			教室
	7	講義	歩行周期と関節モーメント①			教室
	8	講義	歩行周期と関節モーメント②			教室
	9	講義	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析①			教室
	10	講義	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析②			教室
	11	講義	変形性股関節症の姿勢・動作の特徴と分析①			教室
	12	講義	変形性股関節症の姿勢・動作の特徴と分析②			教室
	13	講義	変形性膝関節症の姿勢・動作の特徴と分析①			教室
	14	講義	変形性膝関節症の姿勢・動作の特徴と分析②			教室
	15	講義	まとめ			教室
	16		終講試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト：『観察による歩行分析』（医学書院） 参考図書：『基礎バイオメカニクス第2版』（医歯薬出版）他				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45				実務経験の有無	有
学年・学期配当	1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	本科目では、理学療法プロセスにおける「評価」の意義を理解し、対象者の身体機能、活動、参加の状態を適切に捉えるための基礎的技術と臨床推論能力を養う。特に、病態・機能障害・活動制限の因果関係を可視化することで、検査結果を統合し、対象者の全体像を論理的に解釈する能力の土台を作することを目的とする。					
授業全体の内容の概要	本科目は、症例をベースとした問題解決型学習（PBL）と教員による補足講義とを組み合わせで展開する。グループワークを中心とした症例課題検討を通して、理学療法評価の選択プロセスと評価結果の解釈、臨床推論過程について学習する。					
授業修了時の達成課題（到達目標）	・グループワークにおいて、他者と情報を共有・議論し、主体的に課題解決に取り組む姿勢を示す。 ・疾患の病態と、それに関連する機能障害・活動制限の因果関係を説明できる。 ・症例の情報に基づき、必要となる理学療法評価を適切に選定できる。 ・評価結果から主要な問題点を抽出できる。 ・対象者の病態に応じたリスク管理の知識を正しく理解できる。 ・臨床実習で求められる評価および治療技術を、模擬患者に対し正確かつ安全に実施できる。					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	授業オリエンテーション			教室
	2	講義・演習	整形外科症例情報提示			実習室
	3	演習	整形外科症例検討			実習室
	4	演習	整形外科疾患評価演習			実習室
	5	演習	整形外科疾患評価演習			実習室
	6	講義・演習	演習統括			実習室
	7	講義・演習	演習統括			実習室
	8	講義・演習	中枢神経系疾患症例提示			実習室
	9	演習	中枢神経系疾患症例検討			実習室
	10	演習	中枢神経系疾患評価演習			実習室
	11	演習	中枢神経系疾患評価演習			実習室
	12	講義・演習	演習統括			実習室
	13	講義・演習	演習統括			実習室
	14	演習	中間テスト			実習室
	15	演習	中間テスト			実習室
	16	講義・演習	生活期症例提示			実習室
	17	演習	生活期症例検討			実習室
	18	演習	生活期症例評価演習			実習室
	19	演習	生活期症例評価演習			実習室

指導計画	20	講義・演習	演習統括	実習室
	21	講義・演習	演習統括	実習室
	22	演習	総復習	実習室
	23	演習	ピアレビュー	実習室
		実技試験	期末実技試験	実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		Crosslink理学療法学テキスト「理学療法評価学」 図解 理学療法 検査・測定ガイド 第3版 文光堂・ ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 第2版		
評価方法		成績評価は、態度・成果物20%、中間テスト30%、終講試験50%の割合で評点を算出する。 原則、実施された授業回数の1／3以上欠席した場合、終講試験の受験を不可とする。 授業の進捗状況によって授業内容の一部変更や順序の入れ替えを行う場合がある。		

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	動作分析学		学科名	理学療法学科	講師名	小松 晃
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（クリニック）にて実務経験あり
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		日常生活における基本動作となる、寝返り～起き上がり～起立・着座～歩行動作のメカニズムや評価方法を、講義や実技を通して学んでいく。また臨床実習に向けたレポートの作成練習や、評価する力を高めていくためのグループワークを行い、表現する力も養っていく。				
授業全体の内容の概要		運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める 分析結果より問題点を抽出する				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1、運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深めることが出来る 2、分析結果より問題点を抽出することが出来る				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	動作分析学総論			実習室
	2	講義	起立・着座動作の分析の概要			実習室
	3	実習	起立・着座動作の分析方法について			実習室
	4	演習	起立・着座動作の分析：グループワーク			実習室
	5	講義	寝返り動作の分析の概要			実習室
	6	実習	寝返り動作の分析方法について			実習室
	7	演習	寝返り動作の分析：グループワーク			実習室
	8	講義	起き上がり動作の分析の概要			実習室
	9	実習	起き上がり動作の分析方法について			実習室
	10	演習	起き上がり動作の分析：グループワーク			実習室
	11	講義	歩行の観察方法について			実習室
	12	講義	歩行の観察方法について			実習室
	13	実習	歩行の分析方法について			実習室
	14	演習	歩行の分析：グループワーク			実習室
	15	講義	まとめ			実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 石井慎一郎 編著				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、終講試験90%、出席状況10%をもって判定する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	整形外科学Ⅱ(画像診断学を含む)		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	30				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		整形外科学は、身体運動の運動学に関する臨床医学であり、各分野に拡大しつつある整形外科の総論を学ぶ。その中で、理学療法士のリハビリテーションを必要とする代表的な疾患を体系化し病態、臨床症状、診断、治療などについて学ぶ。				
授業全体の内容の概要		リハビリテーションを必要とする代表的な疾患を体系化し病態、臨床症状、診断、治療などについて学ぶ。				
授業修了時の達成課題(到達目標)		・臨床実習に必要な整形外科疾患の基礎知識を理解し、理学療法実践の基盤を形成できる。 ・国家試験に必要な整形外科疾患の知識について説明できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	オリエンテーション			教室
	2	講義	脊椎・脊髄疾患①			教室
	3	講義	脊椎・脊髄疾患②			教室
	4	講義	肩関節疾患①			教室
	5	講義	肩関節疾患②			教室
	6	講義	肘関節疾患①			教室
	7	講義	肘関節疾患②			教室
	8	講義	手・手関節疾患①			教室
	9	講義	手・手関節疾患②			教室
	10	講義	膝関節疾患①			教室
	11	講義	膝関節疾患②			教室
	12	講義	股関節疾患①			教室
	13	講義	股関節疾患②			教室
	14	講義	足・足関節疾患			教室
	15	講義	まとめ			教室
	16		試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		標準整形外科学 医学書院				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	社会保障制度論		学科名	理学療法学科	講師名	森内 康之	
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務 社会福祉士 業務歴：無 介護支援専門員 業務歴：無	
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		社会保障の概念並びにその制度を理解することにより、医療専門職としての関わり方を学んでいく。					
授業全体の 内容の概要		テーマとなる資料を配布し、授業をおこなう。 国家試験過去問から本授業に関連する内容を提示することも盛込む。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		医療サービスを提供する医療専門職として包括的に社会保障制度の全般を理解する。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	ガイダンス・社会保障制度総論				
	2	講義	社会保障の理念、概念、機能				
	3	講義	社会福祉・社会保障の発展				
	4	講義	社会保障の体系と方法				
	5	講義	障害（児）者福祉				
	6	講義	高齢者福祉				
	7	講義	社会保険制度の諸施策(1)				
	8	講義	社会保険制度の諸施策(2)				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		参考図書 社会福祉士国試ナビ					
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため管理を徹底すること。成績評価は定期試験（60％）及び小テスト・レポート（40％）をもって判定する。					

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅷ (心疾患・糖尿病)		学科名	理学療学科	講師名	森内 康之
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期 後期 通期		
目的・ねらい		理学療法の対象として増加してきている内部疾患のうち、生活習慣病と関連のある心疾患や糖尿病について理学療法的治療ならびに前提となる評価を学習する。また、それを踏まえて予防の重要性について考える。				
授業全体の 内容の概要		疾患の理解度を高めるために循環器や内分泌系の解剖生理を再確認し、疾患の症候との関連づけを図る。その上で、理学療法を進めていくための評価、さらには現在実施されている治療法を紹介する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 循環器系ならびに内分泌系の解剖生理が理解できる。 2. 虚血性心疾患や心不全、糖尿病の症候が理解できる。 3. 理学療法に必要な評価やそれぞれの治療方法について概略が理解できる。 4. 理学療法の臨床判断を行うための客観的指標に基づく基礎的心電図が判読できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	心臓リハビリテーションの概要			
	2	講義	循環器系の解剖生理（１）			
	3	講義	循環器系の解剖生理（２）			
	4	講義・実技	脈拍と血圧の評価			
	5	講義	心電図判読（１）			
	6	講義	心電図判読（２）			
	7	講義	心電図判読（３）			
	8	講義	心不全の理学療法（１）			
	9	講義	心不全の理学療法（２）			
	10	講義	虚血性心疾患の理学療法（１）			
	11	講義	虚血性心疾患の理学療法（２）			
	12	講義	運動負荷試験と運動処方			
	13	講義	代謝性疾患と理学療法（１）			
	14	講義	代謝性疾患と理学療法（２）			
	15	講義	代謝性疾患と理学療法（３）			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		内部疾患理学療法学 第2版				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため管理を徹底すること。成績評価は定期試験（60％）及び小テスト・レポート（40％）をもって判定する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅶ (小児)		学科名	理学療法学科	講師名	今野哲男 小川舞衣香		
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務 作業療法士業務		
学年・学期配当			1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			理学療法士として必要な小児疾患の基礎的知識を修得し、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようにする。					
授業全体の 内容の概要			小児科学では、小児リハビリテーションの概要、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の正常な成長・発達を学ぶと共に、評価方法、治療、主な小児の疾患について学習する。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			小児の正常な成長・発達について理解する。小児における各疾患の基礎的知識を理解し、その評価や治療方法について効果的なリハビリテーションを選択し実践できる。					
指導計画	回	形態	内 容				場所	
	1	講義	オリエンテーション、小児リハビリテーション概論				教室	
	2	講義	小児の成長・発達①				教室	
	3	講義	小児の成長・発達②				教室	
	4	講義	診断・評価				教室	
	5	講義	治療				教室	
	6	講義	障害				教室	
	7	講義	重症心身障害				教室	
	8	講義	新生児疾患、てんかん				教室	
	9	講義	神経筋疾患				教室	
	10	講義	二分脊椎				教室	
	11	講義	脳血管障害～脳症				教室	
	12	講義	脳性麻痺				教室	
	13	講義	国試問題演習				教室	
	14	講義	脳性まひ児の理学療法①				教室	
	15	講義	脳性まひ児の理学療法②				教室	
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等			小児リハビリテーション医学 第2版：医歯薬出版株式会社					

評価方法	出席状況、受講態度、筆記試験を考慮して総合的に判定する。
------	------------------------------

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅵ(呼吸障害)		学科名	理学療学科	講師名	道広 博之	
時間数	30				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有	
学年・学期配当	1 年次		2 年次	前期	後期	通期	
目的・ねらい	呼吸器疾患はもちろんのこと、特に対象者が中枢疾患患者や高齢者の場合には何らかの形で呼吸障害を生じることが多い。理学療法の領域にかかわらず呼吸障害に対する理解ならびにその対処法を習得することは臨床現場では必須となる。本講義においては、その呼吸障害の基本的事項の確認ならびに基本的な評価および治療を学習する。						
授業全体の内容の概要	疾患の理解度を高めるために呼吸器の解剖生理を再確認し、疾患の症候との関連づけを図る。その上で、理学療法を進めていくための評価、さらには標準的な呼吸リハビリテーション診療について学習する。						
授業修了時の達成課題（到達目標）	1. 呼吸器系の解剖生理が理解できる。 2. 閉塞性や拘束性呼吸障害、呼吸不全の症候が理解できる。 3. 理学療法に必要な評価やそれぞれの治療方法について概略が理解できる。						
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義	呼吸器系の解剖生理（１）－ 呼吸器系の解剖（鼻腔～気管支）				教室
	2	講義	呼吸器系の解剖生理（２）－ 呼吸器系の解剖（肺、胸郭、呼吸筋）				教室
	3	講義	呼吸器系の解剖生理（３）－ 呼吸器系の生理（ガス交換）				教室
	4	講義	呼吸器系の解剖生理（４）－ 呼吸器系の生理（呼吸の調節－神経性調節、酸塩基平衡）				教室
	5	講義	呼吸器疾患の症候（１）－ 閉塞性換気障害と拘束性換気障害				教室
	6	講義	呼吸器疾患の症候（２）－ 閉塞性換気障害（COPD、気管支喘息）				教室
	7	講義	呼吸器疾患の症候（３）－ 拘束性換気障害（間質性肺炎・肺線維症）				教室
	8	講義	呼吸器疾患の症候（４）－ 呼吸不全				教室
	9	講義	呼吸障害の評価（１）－ 生理学的検査				教室
	10	講義	呼吸障害の評価（２）－ 理学療法評価				教室
	11	講義・実技	呼吸障害の評価（３）－ 理学療法評価実習				教室
	12	講義	呼吸障害の理学療法（１）－ 総論				教室
	13	講義・実技	呼吸障害の理学療法（２）－ コンディショニング（リラクゼーション、排痰法、気道クリーニング）				教室
	14	講義・実技	呼吸障害の理学療法（３）－ コンディショニング（呼吸訓練、胸郭可動域訓練）				教室
	15	講義・実技	呼吸障害の理学療法（４）－ 運動療法、ADL訓練				教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等	「内部疾患理学療法学」第2版 医歯薬出版						
評価方法	履修期間内に４回、前回の履修内容を確認するための小テストを実施し４０％とする。また、定期試験（筆記試験）の６０％を合計し、１００％（１００点満点）とする。						

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅴ (脊髄損傷)		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい			1. 脊髄損傷の病態・評価方法について理解することができる。 2. 損傷レベル別の理学療法・日常生活自立度について理解することができる。			
授業全体の 内容の概要			脊髄損傷の病態と理学療法について学習する。併せて、過去の国家試験問題についても解説を行う。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			脊髄損傷は、脳損傷と同じく中枢神経系の障害を原因として発生するが、病態と理学療法のあり方は全く異なることが理解されることを目標とする。			
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	脊髄損傷の疫学・発生機序・損傷脊髄の病理学			教室
	2	講義	脊髄損傷の評価（Impairment評価・フツカル分類・Zancolli分類・ASIAなど）			教室
	3	講義	脊髄不全損傷の理解のための機能解剖（神経伝導路）			教室
	4	講義	脊髄不全損傷			教室
	5	講義	合併症			教室
	6	講義	移乗動作の理解①			教室
	7	講義	移乗動作の理解②			教室
	8	講義	歩行、上肢装具の理解①			教室
	9	講義	歩行、上肢装具の理解②			教室
	10	講義	歩行、下肢装具の理解①			教室
	11	講義	歩行、下肢装具の理解②			教室
	12	講義	頸髄損傷者の自助具(日常生活編)の理解①			教室
	13	講義	頸髄損傷者の自助具(日常生活編)の理解②			教室
	14	講義	頸髄損傷者の日常生活動作訓練			教室
	15	講義	まとめ			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			テキスト：使用しない。 参考図書：「脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版」文光堂、他			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験をもって判定する。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅲ(脳血管障害)		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	60				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		脳血管障害の理学療法について学習する。疾患の理解として脳や脊髄および脳血管系の解剖／生理の知識から、障害としての麻痺の捉え方、評価方法、具体的な理学療法を病期に沿って学習する。				
授業全体の内容の概要		テキストに沿って授業を進めるが適時、資料やビデオを用いて追加説明を行い理解を深めてゆく。実習においては理学療法士、患者、介助者（観察者）役の3人で一つのグループを作り進めてゆく。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		脳血管障害の患者増が把握でき、標準的なリハビリテーション診療（評価や治療介入）が理解できる。臨床実習で対象疾患を担当した際に、対応できる知識、技術を習得する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
		講義	脳の機能と構造（運動）			教室
		講義	脳血管障害			教室
		講義	その他の脳損傷疾患 頭部外傷・脳腫瘍・低酸素脳症			教室
		講義	中枢性運動障害の病態			教室
		講義	高次脳機能障害			教室
		実習	片麻痺体験実習（背臥位）			実習室
		講義	中枢性運動障害に対する評価（活動・参加）			教室
		実習	評価実習（SIAS）			実習室
		講義	脳卒中後片麻痺に対する理学療法（装具療法、ロボット治療etc）			教室
		講義	脳卒中片麻痺に対する急性期の介入			教室
		実習	ポジショニング（座位）			実習室
		講義	脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実際（急性期）			教室
		講義	講義定期試験			教室
		実習	脳卒中後片麻痺の寝返り、起き上がり、膝立ちの指導法			実習室
		実習	脳卒中後片麻痺の床からの立ち上がりの指導法			実習室
		実習	脳卒中後片麻痺の移乗の指導法			実習室
		実習	脳卒中後片麻痺の歩行の指導法			実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 また随時、レポートや実技試験をおこなうこともある。			
テキスト・参考図書等		石川 朗 大畑光司 『神経障害理学療法学Ⅲ』 中山書店 ISBN978-4-521-74497-4C3347				

評価方法	出席 40%、試験50%、レポート及び小テスト10% その他授業態度についても勘案し、総合評価とする。
------	--

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅱ (運動器一下肢)		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	60時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		運動器系疾患に対する理学療法士としての思考過程を理解し、各病態に対応した評価に関する検査・測定 of 技術を身につけ、理学療法計画の立案ができるようになることを目的とする。				
授業全体の 内容の概要		運動器系疾患によって生じる傷害及び障害について、病態を理解したうえで、理学療法の評価や治療の考え方を学習するとともに、それぞれ実践できるよう実技・グループ学習入れながら学ぶ。また、理学療法プログラムを実施する際の留意点、リスクなどを学ぶ。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		①運動器系疾患の構造と機能を理解できる ②運動器系疾患に起因する運動障害と機能障害の関係が理解できる ③運動器系疾患を理解し評価・治療が理解できる ④運動器系疾患の理学療法プログラムを実施する際の留意点・リスク管理などが理解できる				
指導計画	回	形態				場所
	1	講義	運動器系理学療法総論①			教室
	2	講義	股関節の運動器系疾患 機能解剖学①			教室
	3	講義	股関節の運動器系疾患 機能解剖学②			教室
	4	講義	股関節の運動器系疾患 変形性股関節症一病態・障害像			教室
	5	実技	股関節の運動器系疾患 変形性股関節症一評価・治療①			実習室
	6	実技	股関節の運動器系疾患 変形性股関節症一評価・治療②			実習室
	7	講義	股関節の運動器系疾患 大腿骨頸部骨折/転子部骨折一病態・障害像			教室
	8	実技	股関節の運動器系疾患 大腿骨頸部骨折/転子部骨折一評価・治療①			実習室
	9	実技	股関節の運動器系疾患 大腿骨頸部骨折/転子部骨折一評価・治療②			実習室
	10	講義	膝関節の運動器系疾患 機能解剖学①			教室
	11	講義	膝関節の運動器系疾患 機能解剖学②			教室
	12	講義	膝関節の運動器系疾患 変形性膝関節一病態・障害像			教室
	13	実技	膝関節の運動器系疾患 変形性膝関節一評価・治療①			実習室
	14	実技	膝関節の運動器系疾患 変形性膝関節一評価・治療②			実習室
	15	講義	膝関節の運動器系疾患 靱帯損傷一病態・障害像			教室
	16	講義	まとめ①			教室
	17	実技	膝関節の運動器系疾患 靱帯損傷一評価・治療①			実習室
	18	実技	膝関節の運動器系疾患 靱帯損傷一評価・治療②			実習室
	19	実技	膝関節の運動器系疾患 靱帯損傷一評価・治療③			実習室
	20	講義	脊柱の運動器系疾患 機能解剖①			教室

指導計画	21	講義	脊柱の運動器系疾患 腰椎椎間板ヘルニア/腰部脊柱管狭窄症－病態・障害像①	教室
	22	講義	脊柱の運動器系疾患 腰椎椎間板ヘルニア/腰部脊柱管狭窄症－病態・障害像②	教室
	23	実技	脊柱の運動器系疾患 腰椎椎間板ヘルニア/腰部脊柱管狭窄症－評価・治療①	実習室
	24	実技	脊柱の運動器系疾患 腰椎椎間板ヘルニア/腰部脊柱管狭窄症－評価・治療②	実習室
	25	講義	足関節の運動器系疾患 機能解剖	教室
	26	講義	足関節の運動器系疾患 足関節捻挫/アキレス腱断裂－病態・障害像	教室
	27	講義	足関節の運動器系疾患 足関節捻挫/アキレス腱断裂－病態・障害像	教室
	28	実技	足関節の運動器系疾患 足関節捻挫/アキレス腱断裂－評価・治療①	実習室
	29	実技	足関節の運動器系疾患 足関節捻挫/アキレス腱断裂－評価・治療②	実習室
	30	講義	まとめ②	教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		cross link 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 筋骨格系のキネシオロジー 医歯薬出版株式会社		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。 成績評価は、中間試験、終講試験、受講態度をもって判定する。 終講試験は、筆記試験・実技テストを実施する。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅰ(運動器-上肢)		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	60				実務経験の有無	有
学年・学期配当	1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	本科目では代表的な運動器疾患の病態を理解し、理学療法診断に基づいた適切な治療プログラムを立案・実施できる能力を養う。具体的には、肩関節、肘関節、手関節および手指における疾患などを取り上げて、根拠に基づいた治療介入の基礎を構築することを目的とする。					
授業全体の内容の概要	本講義は肩・肘・手関節を中心とした上肢の運動器の主要疾患を対象に、「機能解剖・病態の解釈」に関する講義と「評価・治療技術」に関する演習を組み合わせで展開する。また、問題解決型学習（PBL）などのアクティブラーニングの手法を用いて運動器理学療法のプロセスを学習とペアワークによる実技演習や症例検討を通じて、個々の病態に合わせた評価・治療プログラムを立案する能力を養う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）	- グループワークにおいて、他者と情報を共有・議論し、主体的に課題解決に取り組む姿勢を示す。 - 主要な上肢の運動器疾患の機能解剖および病態、組織の修復過程を理解する。 - 機能障害と活動制限の因果関係を論理的に説明できる - 病態や病期に合わせた理学療法評価を選択し、問題点を抽出できる。 - 科学的根拠に基づいた治療ゴールと具体的な治療プログラムを立案・提示できる。					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	授業オリエンテーション			実習室
	2	講義	運動器理学療法の考え方			実習室
	3	講義	組織修復・治癒過程			実習室
	4	講義	組織修復・治癒過程			実習室
	5	講義	骨折・脱臼総論			実習室
	6	講義	上肢の骨折の概要			実習室
	7	講義・演習	上肢の骨折に対する理学療法評価、治療の実際			実習室
	8	講義・演習	上肢の骨折に対する理学療法評価、治療の実際			実習室
	9	演習	症例検討ワーク			実習室
	10	演習	症例検討ワーク			実習室
	11	講義	肩関節疾患総論			実習室
	12	講義	肩関節疾患総論			実習室
	13	講義・演習	肩関節疾患に対する理学療法評価、治療の実際			実習室
	14	講義・演習	肩関節疾患に対する理学療法評価、治療の実際			実習室
	15	講義	上肢のスポーツ障害概論			実習室
	16	講義	トレーニング理論			実習室
	17	講義	肘・手関節疾患概論			実習室
	18	講義・演習	上肢のスポーツ障害・肘関節疾患に対する理学療法評価、治療の実際			実習室
	19	演習・演習	上肢のスポーツ障害・肘関節疾患に対する理学療法評価、治療の実際			実習室

	20	講義	関節リウマチに対する理学療法	実習室
指導計画	21	講義	上肢の運動系機能障害論	実習室
	22	講義	上肢の運動系機能障害論	実習室
	23	講義・演習	上肢の運動系機能障害に対する理学療法評価、治療の実際	実習室
	24	講義・演習	上肢の運動系機能障害に対する理学療法評価、治療の実際	実習室
	25	演習	症例検討ワーク	実習室
	26	演習	症例検討ワーク	実習室
	27	講義・演習	頸椎・胸椎の理学療法	実習室
	28	講義・演習	顎関節の理学療法	実習室
	29	講義	上肢の運動器理学療法のまとめ	実習室
	30	講義	上肢の運動器理学療法のまとめ	実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		Crosslink理学療法学テキスト 運動器理学療法学 図解 理学療法 検査・測定ガイド 第3版 文光堂・ ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション 第2版		
評価方法		成績評価は、態度10%、成果物・小テスト30%、終講試験60%の割合で評定を算出する。 実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	義肢装具学実習		学科名	理学療法学科	講師名	平田 慎太郎		
時間数	45時間				実務経験の有無	義肢装具士		
学年・学期配当			1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい			義肢装具に関する知識を深め、臨床の現場で義肢装具に携わる上で困ることがない様にする					
授業全体の 内容の概要			下腿義足、大腿義足、それぞれぞれの特質と異常歩行の対処方法について、実技を交えて進めていく。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			一定量の義肢装具の知識を習得する					
指導計画	回	形態	内 容					場所
	1	講義・実技	短下肢装具の特質					教室・実習室
	2	講義・実技	長下肢装具・股装具・膝装具の特質					教室・実習室
	3	講義・実技	靴型装具					教室・実習室
	4	講義・実技	下肢装具のチェックアウトの実践					教室・実習室
	5	講義・実技	体幹装具・側弯症装具					教室・実習室
	6	講義・実技	上肢装具及び自助具					教室・実習室
	7	講義・実習	車椅子・歩行補助具					教室・実習室
	8	講義・実習	疾患別装具の実際―脳卒中片麻痺の装具―					教室・実習室
	9	講義・実習	疾患別装具の実際―整形疾患の装具―					教室・実習室
	10	講義・実習	疾患別装具の実際―関節リウマチの装具―					教室・実習室
	11	講義・実習	疾患別装具の実際―対麻痺・小児の装具―					教室・実習室
	12	講義・実習	切断と義肢の基礎知識					教室・実習室
	13	講義・実習	義肢の支給体系					教室・実習室
	14	講義・実習	大腿義足の構造					教室・実習室
	15	講義・実習	大腿義足の構造 2					教室・実習室
	16	講義・実習	大腿義足の構造 3					教室・実習室
	17	講義・実習	大腿義足の構造 4					教室・実習室
	18	講義・実習	大腿義足の構造 5					教室・実習室
	19	講義・実習	下腿義足の構造 1					教室・実習室
	20	講義・実習	下腿義足の構造 2					教室・実習室

指導計画	21	講義・実習	下腿義足の構造3	教室・実習室
	22	講義・実習	義手	教室・実習室
	23	講義・実習	義足装着時の理学療法並びにまとめ	教室・実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		『義肢装具のチェックポイント 第9版』		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末テストは、筆記テストとして実施する。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	義肢装具学		学科名	理学療法学科	講師名	平田 慎太郎
時間数	15時間				実務経験の有無	義肢装具士業務
学年・学期配当		1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい		義肢装具に関する知識を深め、臨床の現場で義肢装具に携わる上で困ることがない様にする。				
授業全体の 内容の概要		「義肢」とは、切断により四肢の一部が失われた際、それを補填する目的で作製された人工物の手足です。一方「装具」とは、低下した身体機能を補完する目的で身体外部に装着する機器です。この科目では、装具を中心に、どのような種類があるのか、それぞれの装具がどのような機能を持っているのか、使用に当たってどのように管理を行えばよいのか解説していきます。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		一定量の義肢装具の知識を習得する				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	ガイダンス			教室
	2	講義	下肢装具の種類、機能、チェックポイント①			教室
	3	講義	下肢装具の種類、機能、チェックポイント②			教室
	4	講義	上肢装具の種類、機能、チェックポイント①			教室
	5	講義	上肢装具の種類、機能、チェックポイント②			教室
	6	講義	体幹装具の種類、機能、チェックポイント①			教室
	7	講義	体幹装具の種類、機能、チェックポイント②			教室
	8	講義	まとめ			教室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		義肢装具のチェックポイント第9版 医学書院				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末テストは、筆記テストとして実施する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	老年期学		学科名	理学療法学科	講師名	森内 康之
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		加齢に伴う生理・運動・認知機能の変化を学ぶとともに、代表的な廃用・褥瘡などの高齢者に生じやすい疾病・障害について、病因や分類、病態、評価、高齢者の心理・社会的側面など理解する。				
授業全体の内容の概要		臨床現場の体験を伝えながら高齢者について幅広く学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		高齢者の心身機能や生理的な変化などを理解し、臨床に出た際の接し方・心構えを習得する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	加齢と老化			教室
	2	講義	加齢に伴う変化について 生理機能・運動機能			教室
	3	講義	加齢に伴う変化について 認知機能			教室
	4	講義	フレイル・サルコペニアについて			教室
	5	講義	介護予防（特にフレイル・サルコペニアの予防）			教室
	6	講義	老年症候群の特徴			教室
	7	講義	高齢者の理学療法を実施する上でのリスク管理			教室
	8	講義	チームアプローチ			教室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学』医学書院				
評価方法		筆記試験、講義への参加態度（出席率・質問・意見等）				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅱ (評価実習)		学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	135時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当	1 年次		2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい	見学実習で学んだ臨床体験を発展させるとともに、学内での学びを基盤とした知識・技術を統合して、臨床実習指導者の指導のもとに実際の対象者に理学療法評価に必要なリスク管理や検査・測定を経験する。					
授業全体の 内容の概要	理学療法学科では以下の実習内容をガイドラインに実習を展開する。 ・処方箋やカルテの読み取り、問診、他職種からの情報収集といった基本的な情報収集を行う。 ・理学療法に関わる検査・測定を実施する。 ・収集した情報を解釈・統合したうえで、問題点抽出、目標設定、治療計画立案まで一連の過程を体験する。					
授業修了時の 達成課題 (到達目標)	対象者や関連職種の方々と良好な人間関係を形成する ・臨床実習を通じて医療人・社会人としての人間性を高める ・基本的な理学療法を経験し、臨床的思考力を養う ・理学療法診療業務へ参加できる ・必要なリスク管理に留意して検査・測定を経験する					
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	校内ガイダンス			教室
	2	実習	病院・施設実習 グループA：令和8年1月19日（月）～令和8年2月7日（土）			実習地
	3	実習	病院・施設実習 グループB：令和8年2月9日（月）～令和8年2月28日（土）			実習地
	4	講義	事後検討会			教室
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等	特に指定しない。					
評価方法	臨床実習先の評価と報告レポートをもとに総合的に判断する。					

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床医学演習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	宮本淳/専任教員
時間数	30				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		・ 演習を通じて、国家試験出題数の多い主要科目についての復習ならびに確認を実施する。				
授業全体の 内容の概要		・ 国家試験対策学習方法を体験し、学習の自立を促進する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		・ 1 年次・2 年次に学習した基礎医学分野、臨床医学分野を復習ならび確認し、国家試験の学習方法を確立する。				
指導計画	回	形態				場所
	1	演習	基礎医学復習①			教室
	2	演習	基礎医学復習②			教室
	3	演習	基礎医学復習③			教室
	4	演習	基礎医学復習④			教室
	5	演習	基礎医学復習⑤			教室
	6	演習	基礎医学復習⑥			教室
	7	演習	臨床医学（整形外科、内科学、神経内科学、リハビリテーション概論）			教室
	8	演習	臨床医学（整形外科、内科学、神経内科学、リハビリテーション概論）			教室
	9	演習	臨床医学（整形外科、内科学、神経内科学、リハビリテーション概論）			教室
	10	演習	臨床医学（整形外科、内科学、神経内科学、リハビリテーション概論）			教室
	11	演習	臨床医学（整形外科、内科学、神経内科学、リハビリテーション概論）			教室
	12	演習	臨床医学まとめ①			教室
	13	演習	臨床医学まとめ②			教室
	14	演習	臨床医学まとめ③			教室
	15	演習	臨床医学まとめ④			教室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		配布資料				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験をもって判定する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法画像評価学		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己 宮本 淳 今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期 後期 通期		
目的・ねらい		画像所見から疾患を理解し、障害を理解する。				
授業全体の 内容の概要		レントゲン・CT・MRI・MRAの正常画像と異常所見について解説する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		疾患および障害の現状、今後予測される機能的・能力的予後を考察できる必要最小限の読解力の獲得を目指す。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	総論と基礎知識 今野			教室
	2	講義	脳画像のみかた 今野			教室
	3	講義	脳画像のみかた 今野			教室
	4	講義	脳画像のみかた 今野			教室
	5	講義	脳画像のみかた 今野			教室
	6	講義	脳画像のみかた 今野			教室
	7	講義	胸腹部の画像のみかた(内臓系)井崎			教室
	8	講義	胸腹部の画像のみかた(内臓系)井崎			教室
	9	講義	胸腹部の画像のみかた(内臓系)井崎			教室
	10	講義	胸腹部の画像のみかた(内臓系)井崎			教室
	11	講義	骨・関節系のみかた 宮本			教室
	12	講義	骨・関節系のみかた 宮本			教室
	13	講義	骨・関節系のみかた 宮本			教室
	14	講義	脊椎・脊髄の画像のみかた 宮本			教室
	15	講義	脊椎・脊髄の画像のみかた 宮本			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	物理療法学実習			学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護	
時間数	45					実務経験の有無	有	
学年・学期配当		1 年次			2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		各種物理療法機器に実際に触れながら、物理療法の基礎、生理学的反応、種類、適応と禁忌、操作法などを理解し、適切かつ安全に治療ができるための知識を習得し実践することができる。						
授業全体の 内容の概要		物理療法は、温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的負荷等の各物理的エネルギーを用いた治療手技であり、患部の症状改善や理学療法介入の補助、機能補助などを目的とした理学療法介入手段の1つである。本授業では、物理療法の基礎や生理学的作用についての学習及び、実際に物理療法機器を使用し体験する。また、実技体験を通して、適切な物理療法の選択・適用が行えるようグループディスカッションを行う。						
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		物理療法を行うにあたって必要な基礎知識を習得する。 各種物理療法の治療目的および適応・禁忌・注意点を説明できる。 物理療法機器の特徴やリスクを理解した上で、適切な治療機器の選択や期待される効果を議論することができる。						
指導計画	回	形態	内 容					場所
	1	講義	総論					教室
	2	講義	総論					教室
	3	講義	極超短波・超短波療法概論					教室
	4	講義	極超短波・超短波療法概論					実習室
	5	実技	超音波・極超短波体験・グループワーク					実習室
	6	実技	超音波・極超短波体験・グループワーク					教室
	7	講義	超音波・極超短波体グループワーク発表					実習室
	8	講義	喀痰吸引概論・牽引治療概論					実習室
	9	講義	電気治療概論					教室
	10	講義	電気治療概論					教室
	11	講義・実技	喀痰吸引実習					実習室
	12	講義・実技	喀痰吸引実習					実習室
	13	講義	電気治療・牽引体験・グループワーク					教室
	14	講義・実技	電気治療・牽引体験・グループワーク					実習室
	15	実技	電気治療・牽引グループワーク発表					実習室
	16	講義	レーザー療法・赤外線療法概論					教室
	17	講義・実技	レーザー療法・赤外線療法体験・グループワーク					実習室
	18	実技	レーザー療法・赤外線療法体験・グループワーク					実習室
	19	実技	レーザー療法・赤外線療法グループワーク発表					実習室
	20	実技	振動療法・対外衝撃波療法概論					実習室

指導計画	21	実技	バイオフィードバック療法、圧迫療法概論	実習室
	22	講義・演習	三次元動作解析概論	教室
	23	講義・演習	まとめ	教室
			筆記試験（有）・無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		エビデンスから身につける物理療法 第2版（羊土社）		
評価方法		成績評価は、態度評価10%、成果物30%、筆記試験60%をもって判定する。 原則、実施された授業回数の1/3以上欠席した場合、終講試験の受験を不可とする。 授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	物理療法学		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	15				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		理学療法介入の主要な治療手段の一つである物理療法について、物理療法の基礎、生理学的反応、機序、種類、適応と禁忌、操作法などを理解する。適切な物理療法手段の選択と安全な治療ができるための知識を習得し説明することができる。				
授業全体の 内容の概要		物理療法は、温熱、寒冷、電気刺激、光線、力学的負荷等の各物理的エネルギーを用いた治療手段であり、患部の症状改善や理学療法介入の補助、機能補助などを目的とした理学療法の主要な治療手段の1つである。 本授業では、物理療法の基礎や生理学的作用、期待される効果についての学習及び、実際に物理療法機器を使用し体験する。また、物理療法実施前後の変化を観察し、身体内で生じた生理学的作用について推論をする。▪				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		・物理療法の生理学的作用、期待される効果、適応と禁忌を理解する。 ・各種物理療法の治療目的および適応・禁忌・注意点を説明できる。 ・各物理療法の特徴を考慮しながら、適切な物理療法機器の選択について論理的に検討できる。▪				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	物理療法学概論：物理療法の位置付け、定義と歴史			教室
	2	講義	疼痛のメカニズムと種類			教室
	3	講義	痛みの神経生理学と評価			教室
	4	講義	温熱療法総論：目的と種類、温熱療法の基礎			教室
	5	講義	温熱療法び生理学的作用、水治・寒冷療法概論			教室
	6	講義	水治・寒冷療法の生理学的作用			教室
	7	実習	体験学習：温熱療法（ホットパック、パラフィン）			実習室
	8	実習	体験学習：水治・寒冷療法			実習室
			筆記試験（有）・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		エビデンスから身につける物理療法 第2版（羊土社）				
評価方法		成績評価は、態度評価10%、成果物10%、筆記試験80%をもって判定する。 原則、実施された授業回数の1／3以上欠席した場合、終講試験の受験を不可とする。 授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	日常生活活動学実習		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之 大前誠 加藤英記
時間数	60				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		日常生活動作を基本動作とセルフケアの面から、臨床場面で患者に介入する場合に必要な知識と誘導・介助の技術を習得し、実践できることを目的とする。 また、リスク管理に関する知識・技術も学ぶ。				
授業全体の 内容の概要		各種の疾患・障害を考慮したADLの介助方法・指導方法を知識、実技両面から学んでいく。 対人援助職としての礼節、態度に加え、リスク管理に関しても実践レベルの行動を、グループワークなどを通じ、自ら考察を深め、発表を通じて共有し、学んでいく形式とする。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		・主な疾患・障害を有する方の基本動作の介助・指導が健常成人を対象にできる。 ・主な疾患・障害を有する方のADLの介助・指導が健常成人を対象にできる。 ・動作介助・動作指導における配慮・リスク管理ができる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	演習	日常生活動作概論 基本動作とセルフケアについて			実習室
	2	演習	基本動作 寝返りから起き上がり動作			実習室
	3	演習	基本動作 寝返りから起き上がり動作			実習室
	4	演習	基本動作 坐位から立ち上がり動作			実習室
	5	演習	基本動作 車椅子と移乗動作			実習室
	6	演習	基本動作 歩行			実習室
	7	演習	基本動作 床上動作			実習室
	8	演習	セルフケアと生活環境			実習室
	9	演習	疾患別の日常生活動作 片麻痺			実習室
	10	演習	疾患別の日常生活動作 パーキンソン／認知症			実習室
	11	演習	疾患別の日常生活動作 脊髄損傷			実習室
	12	演習	疾患別の日常生活動作 骨折・人工関節術後			実習室
	13	演習	疾患別の日常生活動作 術後患者（呼吸／循環器、がん）			実習室
	14	演習	疾患別の日常生活動作 内部障害			実習室
	15	演習	自助具／福祉用具の種類と使い方			実習室
	16	演習	日常生活動作訓練についてグループワーク①			実習室
	17	演習	日常生活動作訓練についてグループワーク②			実習室
	18	演習	住宅環境整備についてグループワーク			実習室
19	座学	装具療法①			教室	

	20	座学	装具療法②	教室
指導計画	21	演習	排尿障害①	実習室
	22	演習	排尿障害②	実習室
	23	演習	総まとめ	実習室
		筆記試験	終講試験（90分）	
			上記予定は進度により変更の可能性がある。 筆記試験【有り】。欠席または欠課の場合は翌登校日に科目担当者まで必ず訪ねてくること。	
テキスト・参考図書等		なし		
評価方法		小テスト10%、レポート（グループ課題を含む）40%、終講試験50%の割合で評点を100点満点で算出し評定する。原則、実施された授業回数の1/3以上欠席した場合、終講試験受験は不可となる。 但し、小テスト未受験の原因が医療機関受診による場合は、証拠資料（医療機関受診の領収書など）を添えた本人からの申請によりノーカウントとする。ただし1度も小テストを受験していない場合は採点対象外とする。 終講試験未受験は理由を問わず追試験の対象となる（必ず所定の手続きを行うこと）。 また、授業態度や、欠席・遅刻なども加味して総合的な評価とする。		

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	日常生活活動学実習		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之 大前誠 加藤英記
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務 作業療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		日常生活活動（ADL）に必要な基礎知識を復習しつつ、主な疾患・障害を有する患者に対する介助方法・指導方法に関して、理学療法士の視点に立って学ぶことを目的とする。 また、リスク管理に関する知識・技術も学ぶ。				
授業全体の 内容の概要		各種の疾患・障害を考慮したADLの介助方法・指導方法を知識、実技両面から学んでいく。 対人援助職としての礼節、態度に加え、リスク管理に関しても実践レベルの行動を、グループワークなどを通じ、自ら考察を深め、発表を通じて共有し、学んでいく形式とする。				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		・主な疾患・障害を有する方の基本動作の介助・指導が健常成人を対象にできる。 ・主な疾患・障害を有する方のADLの介助・指導が健常成人を対象にできる。 ・動作介助・動作指導における配慮・リスク管理ができる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	演習	基本動作の基本・介助方法・指導方法（グループワーク①）			教室・実習室
	2	演習	基本動作の基本・介助方法・指導方法（グループワーク②）			教室・実習室
	3	演習	セルフケアの基本・介助方法・指導方法（グループワーク①）			教室・実習室
	4	演習	セルフケアの基本・介助方法・指導方法（グループワーク②）			教室・実習室
	5	演習	移乗・移動動作の基本・介助方法・指導方法（グループワーク①）			教室・実習室
	6	演習	移乗・移動動作の基本・介助方法・指導方法（グループワーク②）			教室・実習室
	7	演習	疾患別の日常生活動作 片麻痺			教室・実習室
	8	演習	疾患別の日常生活動作 パーキンソン／認知症			教室・実習室
	9	演習	疾患別の日常生活動作 脊髄損傷			教室・実習室
	10	演習	疾患別の日常生活動作 骨折・人工関節術後			教室・実習室
	11	演習	疾患別の日常生活動作 術後患者（呼吸／循環器、がん）			教室・実習室
	12	演習	疾患別の日常生活動作 内部障害			教室・実習室
	13	演習	自助具／福祉用具の種類と使い方			教室・実習室
	14	演習	日常生活動作訓練についてグループワーク①			教室・実習室
	15	演習	日常生活動作訓練についてグループワーク②			教室・実習室
	16	演習	住宅環境整備についてグループワーク			教室・実習室
	17	演習	移乗・移動動作の基本・介助方法・指導方法（グループ発表①）			教室・実習室
	18	演習	移乗・移動動作の基本・介助方法・指導方法（グループ発表②）			教室・実習室
	19	演習	移乗・移動動作の基本・介助方法・指導方法（グループ発表③）			教室・実習室
	20	演習	最新の福祉用具①（展示会見学）			会場

指導計画	21	演習	最新の福祉用具②（展示会見学）	会場
	22	演習	在宅におけるADL指導①	教室・実習室
	23	演習	在宅におけるADL指導②	教室・実習室
	24	演習	在宅における福祉用具処方①	教室・実習室
	25	演習	在宅における福祉用具処方②	教室・実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。	
テキスト・参考図書等		Cross link 理学療法学テキスト 日常生活活動学		
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験資格を失います。 成績評価は、終講試験結果より判断します。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	日常生活活動学		学科名	理学療法学科	講師名	森内 康之
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		ADLの概念について学び、理学療法士の視点からADLを評価する上で、まずは全体像を把握していく。そしてADLの代表的な評価について具体的な評価内容まで把握する事を目的とする。				
授業全体の 内容の概要		ADLの概念、ADL評価について学修する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 「ADLの概念と範囲」を説明できる。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	日常生活活動の概念（1）			教室
	2	講義	日常生活活動の概念（2）			教室
	3	講義	日常生活活動の概要（1）目的・方法			教室
	4	講義	日常生活活動の概要（2）目的・方法			教室
	5	講義	日常生活活動の評価（1）代表的評価指標			教室
	6	講義	日常生活活動の評価（2）代表的評価指標			教室
	7	講義	日常生活活動の評価（3）代表的評価指標			教室
	8	講義	日常生活活動の実際			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		Cross link 理学療法テキスト 日常生活活動学				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため管理を徹底すること。成績評価は定期試験（60％）及び小テスト・レポート（40％）をもって判定する。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生活環境学		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		身体に障害を持つ人のみならず、高齢者などにも考慮した生活環境について関連知識も含め学ぶ。また、生活環境を整備することによりどのように生活に変化が出るのか、などのグループワークを通じ学んでいく。				
授業全体の内容の概要		基本的に、生活環境について関連法規や基本的な数値などを提示した上で、症例検討などを通じ生活環境の整備について考える。また、車椅子の屋外使用などを通じ、屋外環境についても考察する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		・身体障害者の生活環境について基本的な数値などを理解する。 ・疾患別に生活環境の整備について提案ができる。 ・車椅子の基本構造について寸法なども含め説明できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	総論①			教室
	2	講義	総論②			教室
	3	講義	心身機能と生活環境①			教室
	4	講義	心身機能と生活環境②			教室
	5	講義	心身機能と生活環境③			教室
	6	講義	心身機能と生活環境④			教室
	7	講義	バリアフリー法			教室
	8	講義	バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン			教室
	9	講義	グループワーク①			郊外
	10	講義	グループワーク②			郊外
	11	講義	グループワーク③			郊外
	12	講義	グループワーク④			郊外
	13	講義	生活環境支援（歩行補助具、車椅子）			教室
	14	講義	生活環境支援（セルフケアに関連した生活環境支援）			教室
	15	講義	生活環境支援（家事活動・住宅環境に関連した生活環境支援）			教室
	16	講義	疾患・障害における生活環境			教室
	17	演習	疾患・障害における生活環境			教室
	18	演習	疾患・障害における生活環境（グループワーク①）			教室
	19	演習	疾患・障害における生活環境（グループワーク②）			教室
	20	演習	疾患・障害における生活環境（グループワーク③）			教室

指導計画	21	演習	疾患・障害における生活環境（グループワーク④）	教室
	22	講義	疾患・障害における生活環境	教室
	23	講義	まとめ	教室
			上記予定は進度により変更の可能性がある。学外への行事（展示会等）参加の可能性がある。 筆記試験【有り】。	
テキスト・参考図書等		cross link リハビリテーションテキスト 生活環境学 メジカルビュー社		
評価方法		発表（内容、参加態度など）50%、終講試験50%の割合で評点を100点満点で算出し評定する。 実施された授業回数の1／3以上欠席した場合、終講試験の受験は不可となる。		

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅹ （終末期）		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（急性期～回復期の病院）にて実務経験あり
学年・学期配当		1年次 2年次		前期 後期 通期		
目的・ねらい		医学の進歩などによりわが国の平均寿命は延びて、かつて経験したことのない高齢社会をむかえている。高齢者人口の増加により必然的に「死」に直面する機会が増えてくることは自明である。人として、理学療法士としてその「死」にどのように向き合うのか、何をもって正解かも不透明なところも多いが、できる限り多角的に考える機会としたい。				
授業全体の 内容の概要		総論として「死」や「死生観」について、医学的側面からはもとより、思想や哲学・倫理、さらには経済や制度・社会的側面など多角的にとらえる。その上で、現在どのように終末期ケアが実施されているのかを各論として紹介する。				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		学生個々のレベルでの「死生観」をもつこと、その「死生観」をベースに現在実施されている終末期ケアについての自らの考えや意見を述べるができる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	総論：終末期ケアとは			教室
	2	講義	総論：終末期ケアに求められる考え方（歴史や国による違いなどを含む）			教室
	3	講義	総論：終末期ケアの対象やその特徴、関係する保険などの社会制度			教室
	4	講義	各論：「がん」治療の現状			教室
	5	講義	各論：「がん」における終末期ケア			教室
	6	講義	各論：「高齢者」を取り巻く環境と問題点			教室
	7	講義	各論：「高齢者」の終末期ケア			教室
	8	講義	学生自身の「死生観」ならびにその変化を整理し、述べる。			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		1. 講義資料 2. イラストでわかる内部障害（医歯薬出版）第13～15章				
評価方法		本講義前後に「死」や「死生観」についてのレポートを課す。講義終了時のレポートにおいて、変化の有無や変化のしかた、変化の内容等を講義前のレポートと比較して評価する（60％）。また、本講義は覚えることよりは考えることに重きを置いている。したがって、出席を評価点の一部（40％）とする。				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅹ(リスク)		学科名	理学療法学Ⅹ	講師名	道広 博之
時間数	15時間				実務経験の有無	有
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期 後期 通期		
目的・ねらい		リスク管理について基本的な知識とグループワークを含めてリスク管理の能力を向上させることを目的とする。				
授業全体の内容の概要		医療は常に危険と隣り合わせである。特にリハビリテーションは患者に「負荷」をかけることで機能改善をはかる診療であり、インシデントやアクシデントは発生しやすい。リスクを可能限り減じ、万一のトラブルの際に速やかな対応・分析ができるように学習する。				
授業修了時の達成課題(到達目標)		①リスク管理の基本について理解する ②インシデントやアクシデントに速やかな対応・分析ができるようになる				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	リハビリテーションにおけるリスク管理①			教室
	2	講義	リハビリテーションにおけるリスク管理②			教室
	3	講義	感染対策・予防			教室
	4	演習	危険予知トレーニング①（グループワーク）			教室
	5	演習	危険予知トレーニング②（グループワーク）			教室
	6	講義	疾患別のリスク管理②			教室
	7	講義	疾患別のリスク管理③			教室
	8	講義	その他、業務上のリスク管理			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		教科書「リハベーシック 安全管理学・救急医療学」医歯薬出版 その他資料配布				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末試験は、筆記試験を実施する				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	疾患別理学療法学Ⅳ (神経難病)		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	30時間				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期 後期 通期		
目的・ねらい		神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症等）の病態を理解するとともに、理学療法を実施する上での留意点を学習する。				
授業全体の 内容の概要		テキストに沿って授業を進めるが適時、資料等を用いて追加説明を行い理解を深めて行く。 特に、パーキンソン病ならびに運動失調症については講義に加え、実技を取り入れ行く。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		1. 対象疾患の病態について説明することができる。 2. 対象疾患や病態の評価や治療方法を挙げることができる。また、簡単な助言で実施できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	難病の定義と医療費助成制度、大脳基底核の構造と機能			
	2	講義	脳幹・小脳の構造と機能			
	3	講義	パーキンソン病の病態と治療法			
	4	講義・実技	パーキンソン病に対する評価と理学療法			
	5	講義	運動失調症の病態と評価			
	6	講義・実技	運動失調症に対する理学療法			
	7	講義	脊髄小脳変性症の病態と治療法			
	8	講義	多発性硬化症の病態と治療法			
	9	講義	多発性硬化症に対する評価と理学療法			
	10	講義	ギランバレー症候群の病態と理学療法			
	11	講義	筋萎縮性側索硬化症の病態と治療法			
	12	講義	筋萎縮性側索硬化症に対する評価と理学療法			
	13	講義	筋ジストロフィー症の病態と治療法			
	14	講義	筋ジストロフィー症に対する評価と理学療法			
	15	講義	重症筋無力症の病態と治療法			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有)・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		「神経障害理学療法学Ⅱ（中山書店）」 【参考書】病気がみえる⑦ 脳・神経（メジカルビュー社）				
評価方法		定期試験80%、出席20%（15回：20%・14回：15%・13回：10%・12回：5%・11回以下：0%）とし、合計100%〔100点〕で評価する。そのうち60%以上を合格とする。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	健康増進論 (栄養学を含む)		学科名	理学療法学科	講師名	小松 晃
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		健康に欠かせない「運動」「食事」「睡眠」の基礎知識を理解する 患者様に対して機能だけでなく、生活面を意識した視点を身につける				
授業全体の 内容の概要		健康に必要な「運動」「食事」「睡眠」の基礎知識				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		運動・食事・睡眠の基礎を学び、それぞれの繋がりを理解し、生活を通して患者様と向き合える知識を 取得				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	「健康」に対する基礎知識・考え方①			教室・ 実習室
	2	講義	「健康」に対する基礎知識・考え方②			教室・ 実習室
	3	講義	「運動」の基礎知識①			教室・ 実習室
	4	講義	「運動」の基礎知識②			教室・ 実習室
	5	演習	運動処方①			教室・ 実習室
	6	演習	運動処方②			教室・ 実習室
	7	講義	「睡眠」の基礎知識①			教室・ 実習室
	8	講義	「睡眠」の基礎知識②			教室・ 実習室
	9	演習	睡眠指導「実践」			教室・ 実習室
	10	講義	「食事」の基礎知識①			教室・ 実習室
	11	講義	「食事」の基礎知識②			教室・ 実習室
	12	演習	食事指導「実践」			教室・ 実習室
	13	講義	体内リズムの基礎知識			教室・ 実習室
	14	講義	これからの理学療法士について 目標設定			教室・ 実習室
	15	講義	まとめ			教室・ 実習室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 (無：レポート提出 検討中) しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポ イントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		配布資料				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。 成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更す る場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	一般臨床医学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次	2 年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		理学療法士は医師や看護師と協力して患者の治療にあたるため、医療従事者共通の幅広い医学知識が必要となる。本講義ではその知識を習得するために、主要疾患の診断と治療、人の健康、疾病予防について幅広く学習する。さらに、医療全般について過去の国家試験の出題内容をもとに理解を進めていく。				
授業全体の内容の概要		内科的な疾患を中心に、様々な病気を学習する。 過去の国家試験の出題内容をもとに、医療全般について理解を進めるプロセスを学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		医療全般に関心を持つ習慣をつける。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	膠原病，医療全般についての学習法			教室
	2	講義	呼吸器疾患，医療全般についての学習法			教室
	3	講義	循環器疾患，医療全般についての学習法			教室
	4	講義	消化器疾患，代謝・内分泌疾患，医療全般についての学習法			教室
	5	講義	問題演習			教室
	6	講義	問題演習			教室
	7	講義	問題演習			教室
	8	講義	問題演習			教室
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		第57-61回 理学療法士・作業療法士 国家試験問題 解答と解説 2027				
評価方法		筆記試験				

2026年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	精神医学		学科名	理学療法学科	講師名	青山 信一
時間数	30時間				実務経験の有無	作業療法士業務
学年・学期配当		1年次 2年次 3年次			前期 後期 通期	
目的・ねらい		精神医学領域は、リハビリテーションの対象として重要な領域である。現代の疾患構造としても精神疾患の理解は重要である。精神医学の対象者は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。また、精神科病院の長期入院者が多く、高齢化し、精神科病院で働く理学療法士も増えている。				
授業全体の内容の概要		精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類を学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		精神科領域の疾患や分類だけでなく、リハビリテーションについての知識を得る。精神科領域に対する社会の現状や偏見について知る。臨床や国家試験に対応できる知識の習得と理解。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	精神科リハビリテーション①			教室
	2	講義	精神科リハビリテーション②			教室
	3	講義	精神科リハビリテーション③			教室
	4	講義	精神科リハビリテーション④			教室
	5	講義	精神科リハビリテーション⑤			教室
	6	講義	精神科リハビリテーション⑥			教室
	7	講義	精神科リハビリテーション⑦			教室
	8	講義	精神科リハビリテーション⑧			教室
	9	講義	精神科リハビリテーション⑨			教室
	10	講義	精神科リハビリテーション⑩			教室
	11	講義	精神科リハビリテーション⑪			教室
	12	講義	精神科リハビリテーション⑫			教室
	13	講義	精神科リハビリテーション⑬			教室
	14	講義	精神科リハビリテーション⑭			教室
	15	講義	精神科リハビリテーション⑮			教室
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版 医学書院 その他、必要に応じて資料を配布します。 内容は進行状況等により変更する場合があります。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験資格を失います。 成績評価は、終講試験結果より判断します。				

